

人を育てる中教研その2

2023. 9. 19

アクティブ・ラーニングが教育界を飛び交っていたときでした。席卷する勢いでした。ジグソー学習の原理や基本パターンをお二人に説明しました。半信半疑のようで自信がなさそうでした。結論は、「やってみます」ということでした。

そこからの二人の行動力には、驚かされました。授業をつくることへの熱量がものすごかったのです。パッションです。書籍を何冊も買って読みました。その本は、ページが蛍光ペンで塗られ、付箋紙だらけとなりました。何度もメールが届きました。研修会にも参加していました。県大会の授業をするという責任感、新たなことに取り組むチャレンジ精神、ワクワク感などが、そうさせたのかもしれませんが。

10月の授業へ向けて、1学期のうちからジグソー学習への取組が始まりました。やってみたところ、ここがうまくいきませんでしたという報告が届きます。すると、今度は、こうやってみましょうかという話ができます。ジグソー学習とはいえ、一番大事なことは、教材研究です。教材文をどう読むかです。生徒に考えさせたい課題が決め手となります。

こんなやりとりを続けながら、10月の当日を迎えました。ここに至るまでに、お二人の授業は、すでに変わっていました。大変だったことと思いますが、充実した研修の日々でもありました。熱く燃えた期間でした。その対象が授業だったわけです。お二人の授業を受けることができた生徒は幸せなのではないでしょうか。授業に燃える先生の授業を受けることができたのですから。

数年後、あのときの授業者の方に再会できました。授業研究会の場で「あのときは大変でしたが、今でも私の財産になっています」という話をしてくださいました。その場にいた私には、熱くこみ上げてくるものがありました。きっと、この先生は、その後も授業というものに、正面から向き合い、今も熱い思いを込めていると思うのです。

福島県中学校教育研究会の県大会には、様々なドラマがあると思います。次年度からは、各支部の実態を踏まえ、県大会の開催方法を変えることとなります。研究主題と副主題を設定し、研究を進めていく研究サイクルも変えていきます。また、今年度から、相馬支部と双葉支部とが合併し、相双支部として活動しています。

これからも、中学校の先生方にとって、数少ない県レベルの授業公開の場となる県研究協議会の役割と使命を維持しながら、約2600名の会員の皆様とともに、より魅力的な研修の場となるよう、人を育てる中教研であり続けるために、前に進んでいくつもりです。どうぞよろしくお願いたします。

これは、福島県中学校教育研究会会報の原稿を加筆修正した、いわば完全版である。昔話をしているうちに、字数が制限を超えてしまい、編集担当者には申し訳ないことをした。それでも伝えたい人がある。伝えたいことがある。